

『大原社会問題研究所雑誌』 2022 年度総目次

- (1) 2009～2021 年度の総目次については各翌年度 4 月号を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第 1 号～『大原社会問題研究所雑誌』第 599・600 号までの総目次については、2008 年 10・11 月号 (No.599・600) を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所 Web サイト (<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>) でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997 年 4 月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web 上での公開を行っている。

2022 年 4 月号 No.762

【特集】アメリカの構造的差別を問う——歴史とその実態 (2)	
アメリカ先住民の貧困と自己責任論——セルフ・デタミネーションと部族自治の罫	野口久美子
アメリカ先住民であるということ ——エリザベス・ウォーレンの人種アイデンティティをめぐる葛藤	石山徳子
メキシコ人移民を拒むメキシコ系アメリカ人——戦後期米国の「反移民リベラリズム」	戸田山祐
■論文	
産業別労働組合と演劇サークル——全損保大阪地協演劇部から劇団大阪へ	長島祐基
■書評と紹介	
宮島喬著『多文化共生の社会への条件——日本とヨーロッパ、移民政策を問いなおす』	三浦綾希子
中冨桐代著『シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか ——「働いても貧困」の現実と支援の課題』	駒川智子
エイコ・マルコ・シナワ著／藤田美菜子訳 『悪党・ヤクザ・ナショナリスト——近代日本の暴力政治』	木村直恵
アリシア・ガーザ著／人権学習コレクティブ監訳 『世界を動かす変革の力——ブラック・ライブズ・マター共同代表からのメッセージ』	出口真紀子
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』2021 年度総目次	
月例研究会 シベリア戦争下の『銃後』——奈良県を事例として	土井雄貴
所報	2021 年 12 月

2022 年 5 月号 No.763

【特集】第 34 回国際労働問題シンポジウム COVID-19 危機からの持続可能な回復と技能開発——Reskilling / Upskilling	
特集にあたって	藤原千沙
基調講演 (ビデオメッセージ)	スリニバス・B・レディー
《Reskilling / Upskilling》を「人間中心的」に理解する——研究者の立場から	筒井美紀
地域の需要と人間を中心とした技能開発——実践の立場から	佐々木妙月
ILO 総会出席者コメント——政府の立場から	内野智裕
ILO 総会出席者コメント——労働者の立場から	郷野晶子
ILO 総会出席者コメント——使用者の立場から	田中恒行
ディスカッション	
■論文	
公務員の採用選考と性別情報——差別と闘うツールとしてのジェンダー統計	村尾祐美子

■イベント報告	
マックス・ヴェーバー没後100年シンポジウム 学知の危機とマックス・ヴェーバー——科学主義と反知性主義を超える	鈴木宗徳
■書評と紹介	
佐野嘉秀著『英国の人事管理・日本の人事管理——日英百貨店の仕事と雇用システム』	上田眞士
岡野内正著 『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程——批判開発学／SDGsとの対話』	土佐弘之
甲斐田きよみ著 『アフリカにおけるジェンダーと開発——女性の収入向上支援と世帯内意思決定』	新村恵美
恵羅さとみ著『建設労働と移民——日米における産業再編成と技能』	南 修平
法政大学大原社会問題研究所／鈴木玲編著『労働者と公害・環境問題』	森久 聡
社会・労働関係文献月録	
所報	2022年1月

2022年6月号 No.764

【特集】「植民地戦争」の視座からみた近代日本の「戦争」——近代日本史の中の「不在」を問う（1）	
特集にあたって	愼蒼宇
兵士の戦場と郷土の戦争認識——明治・大正期の富山県東部の場合	村上邦夫
「50年戦争」下の性暴力と性管理——日清・日露戦争を中心に	宋連玉
朝鮮植民地化過程における軍用地収用——鎮海湾一帯を対象として	加藤圭木
■論文	
わだつみ会における加害者性の主題化の過程——1988年の規約改正に着目して	那波泰輔
■書評と紹介	
高阪悌雄著『障害基礎年金と当事者運動——新たな障害者所得保障の確立と政治力学』	中尾友紀
新所長あいさつ	布川日佐史
お詫びと訂正	
社会・労働関係文献月録	
所報	2022年2月

2022年7月号 No.765

【特集】「植民地戦争」の視座からみた近代日本の「戦争」——近代日本史の中の「不在」を問う（2）	
シベリア戦争下の「銃後」——奈良県を事例として	土井雄貴
朝鮮「暴徒」像の形成——義兵戦争と日本の郷土新聞	愼蒼宇
「植民地戦争」再考——台湾先住民族の歴史記憶再構築の地点から	北村嘉恵
■論文	
石炭産業の終焉過程における自治体による諸対策 ——常磐炭砒茨城砒業所の閉山を事例として	平 将志
■書評と紹介	
小島庸平著『サラ金の歴史——消費者金融と日本社会』	田中 光
西崎緑著『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたのか ——制度的人種差別とアメリカ社会福祉史』	佐藤千登勢
竹原万雄著『近代日本の感染症対策と地域社会』	中静未知
吉野浩司著『利他主義社会学の創造——P・A・ソローキンの最後の挑戦』	吉田耕平

社会・労働関係文献月録	
月例研究会 大阪の損保労働者の演劇運動と上演作品	長島祐基
所報	2022年3月

2022年8月号 No.766

【特集】 貧困をめぐる報道と世論の現在——生活保護バッシングから10年	
特集にあたって	鈴木宗徳
コロナ禍と「援助に値する」貧困——一般市民を対象にしたビネット調査を用いた分析	山田壮志郎・阿部 彩
日本の新聞は貧困についてどのように語ってきたのか——社説を中心に	堀江孝司
「貧困」をめぐるテレビ報道はリーマンショック期からコロナショック期にかけてどう変容したのか——生活保護を中心に	水島宏明
■論文	
日本と韓国における若者政策の変容——なぜ両国の政策は分岐したのか	朴在浩
■書評と紹介	
上田修著『生産職場の戦後史——戦後日本における重工業の発展と技術者・勤労担当者の取り組み』	富田義典
猿谷弘江著『六〇年安保闘争と知識人・学生・労働者——社会運動の歴史社会学』	中村勝己
石神圭子著『ソール・アリンズキーとデモクラシーの挑戦——二〇世紀アメリカにおけるコミュニティ組織化運動の政治史』	大和田悠太
関口定一著『ホワイトカラー雇用史序説——20世紀アメリカの企業社会』	清水克洋
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 所員研修：大原社会問題研究所の歴史と未来	榎 一江
所報	2022年4月

2022年9・10月号 No.767・768

【特集】 社会福祉基礎構造改革以降の福祉供給体制	
特集にあたって	米澤 旦
自治体福祉行政における人材育成の変容——社会福祉基礎構造改革以降の福祉の「民営化」によるキャリアの狭まり	山邊聖士
社会福祉基礎構造改革以降の「福祉の多元化」の再検討——経営主体の法人形態に注目して	米澤 旦
障害者作業所の制度化はいかにして進んだか——社会福祉基礎構造改革と障害者自立支援法における論理	原田玄機
社会福祉基礎構造改革と放課後等デイサービスの制度化の展開——障害児の放課後をめぐるポリティクス	加藤旭人
社会福祉基礎構造改革以降における民生委員活動の変化とその地域差——福祉行政報告例の自治体別統計に着目して	堀江和正
地域内の緊張関係への認識はいかに変化したのか——社会福祉基礎構造改革以前 / 以後での地域福祉計画をめぐる記述	中野航綺
■講演	
日本高度成長期における炭鉱夫の生活水準の問題	ベルナルド・トマン
■書評と紹介	
山本卓著『二〇世紀転換期イギリスの福祉再編——リスペクタビリティと貧困』	金澤周作

桜井政成著『福祉 NPO・社会的企業の経済社会学——商業主義化の実証的検討』	須田木綿子
木村健二著『近代日本の移民と国家・地域社会』	細谷 亨
法政大学大原社会問題研究所 2021 年度の歩み	
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 家族の相対的自律性と経済——ジェーン・ハンフリーズ著 『イギリス産業革命期の子どもと労働——労働者の自伝から』の翻訳を終えて	原 伸子
所報	2022 年 5・6 月

2022 年 11 月号 No.769

【特集】 高度経済成長のなかの薬害問題——サリドマイド事件関係資料を読み解く	
特集にあたって	山本唯人
環境アーカイブズのなかの薬害問題——「サリドマイド事件関係資料」を通して	山本唯人
高度成長期の薬害と家族・消費——日本のサリドマイド事件の場合	長谷川達朗
サリドマイド訴訟への市民運動による支援と原告団との見解の相違について	松枝亜希子
サリドマイド事件の歴史的資料	川俣修壽
■論文	
労働者利益代表機能の再検討——労働時間規制をめぐる政策過程の日韓比較から	安周永
■書評と紹介	
鈴木彩加著『女性たちの保守運動——右傾化する日本社会のジェンダー』	海妻径子
小池聖一著『森戸辰男』	長島祐基
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ソーシャル・ビジネスの現在——「お笑いを通じた社会問題の解決」をめざして	マヌー島岡
所報	2022 年 7 月

2022 年 12 月号 No.770

【特集】 戦後失業対策事業・失対労働者の史的再検討	
特集にあたって	榎 一江
戦後失業対策事業・失対労働者と部落問題——差別・貧困・ジェンダー	杉本弘幸
戦後東京の知識層失業対策事業	町田祐一
戦後広島の実業対策事業——1950 年代の戦災都市復興と失対労働者	西井麻里奈
■資料紹介	
大内兵衛資料のリハウジング	中村美香
■書評と紹介	
井谷聡子著 『〈体育会系女子〉のポリティクス——身体・ジェンダー・セクシュアリティ』	合場敬子
鄭安君著 『台湾の外国人介護労働者——雇用主・仲介業者・労働者による選択とその課題』	高畑 幸
岩月真也著『教員の報酬制度と労使関係——労働力取引の日米比較』	遠藤公嗣
西岡晋著『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制——家族政策の「少子化対策化」』	岩本美砂子
西成田豊著『日本の近代化と民衆意識の変容——機械工の情念と行動』	武田晴人
内海愛子編／解説『村井宇野子の朝鮮・清国紀行 ——日露戦争後の東アジアに行く 1906（明治 39）年 4 月 14 日～6 月 16 日』	川田恭子

社会・労働関係文献月録	
月例研究会 ドイツにおける最低生活保障制度改革 ——「ハルツIV」から「市民手当（Bürgergeld）」へ	布川日佐史
所報	2022年8月

2023年1月号 No.771

【特集】介護の社会化を問いなおす——ジェンダー・ケア・シングルの視点から	
特集にあたって	北 明美
介護労働評価と家事労働——再生産労働としての再検討	伊田久美子
新自由主義とケア労働	山根純佳
介護保険制度における「介護の社会化」と家族介護 ——高齢者の生活全体を支える介護支援とはなにか	森 詩恵
介護保険制度下のケア労働の実態 ——ホームヘルパー国家賠償訴訟原告・伊藤みどり氏インタビュー	
■論文	
労働組合は看護業務をどう捉えたか？ ——看護制度問題と「ニッパチ闘争」の検討から	西村 健
■書評と紹介	
大森真紀著『性別定年制の史的研究——1950年代～1980年代』	萩原久美子
高木郁朗著／中北浩爾編『戦後革新の墓碑銘』	新川敏光
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 山間地域の部落婦人会——兵庫県宍粟郡一宮町閭賀部落婦人会の事例	長谷川達朗
所報	2022年9月

2023年2月号 No.772

【特集】プラットフォーム・ビジネスがもたらす雇用変容——ライドシェアをめぐる	
特集にあたって	佐口和郎
ライドシェアの普及とタクシー産業へのインパクト——日本の事例が意味すること	佐口和郎
タクシー労働者の雇用労働者性とライドシェア参入可能性への反応 ——地域特性に注目して	金井 郁・橋本由紀
タクシー乗務員の働き方とライドシェア参入への賛否 ——生活保障、労働時間、雇用労働者性を中心に	小前和智
■論文	
戦間期から戦時期の工場医と「健康管理」——鐘紡工場医会を中心に	新川綾子
■書評と紹介	
金教誠・白承浩・徐貞姫・李承潤著／木村幹監訳、李滄美訳、金成垣解説 『ベーシックインカムを実現する——問題意識から導入ステップ、運動論まで ——選挙争点化された韓国で進む議論』	金早雪
梅崎修著『日本のキャリア形成と労使関係——調査の労働経済学』	青木宏之
加藤聖文著『海外引揚の研究——忘却された「大日本帝国」』	柳沢 遊
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 戦前の格差社会と映画——大都映画のプレゼンス	宜野座菜央見
所報	2022年10月

2023年3月号 No.773

【特集】日本労働遺産	
特集にあたって	榎 一江
『労働者新聞』・神戸川崎三菱大争議の実写フィルムと大原社会問題研究所	榎 一江
『死線を越えて』草稿と賀川豊彦記念松沢資料館	杉浦秀典
「日本労働運動発祥之地」石碑・惟一館煉瓦跡跡と日本労働会館	間宮悠紀雄
■追悼	
是枝洋小伝——回想に代えて	二村一夫
■書評と紹介	
ジェーン・ハンフリーズ著／原伸子・山本千映・赤木誠・齊藤健太郎・永島剛訳 『イギリス産業革命期の子どもと労働——労働者の自伝から』	藤井 透
桜井智恵子著 『教育は社会をどう変えたのか——個人化をもたらすリベラリズムの暴力』	菊地栄治
禿あや美著 『雇用形態間格差の制度分析——ジェンダー視角からの分業と秩序の形成史』	鈴木恭子
吉原直樹著『モビリティーズ・スタディーズ——体系的理解のために』	根岸海馬
小野太一著『戦後日本社会保障の形成——社会保障制度審議会と有識者委員の群像』	秋元美世
沢井実著『技能形成の戦後史——工場と学校をむすぶもの』	熊沢 透
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 『〈サラリーマン〉の文化史 ——あるいは「家族」と「安定」の近現代史』を刊行して	鈴木貴宇
所報	2022年11月

法律文化社 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71 *税込価格
<https://www.hou-bun.com/>

ひとり親家庭はなぜ困窮するのか
 金川めぐみ著 ●戦後福祉法制から権利保障実現を考える ●5280円
 国会会議録にみる国の家族観と「福祉の権利化」の視点から変遷過程を考
 察し、政治哲学の人間像とケアの倫理を基に法政策のあり方を示す。

認知症のある人への経済支援
 竹本与志人著 ●介護支援専門員への期待「社会福祉研究叢書」⑩ ●4980円
 認知症のある人の経済問題の実態と経済支援の現状を可視化し、経済問
 題の評価や制度の選定など課題解消の方法を検討する。

◆貧困を可視化する大規模な生活調査
子どもと家族の貧困 ●学際的調査から
 みえてきたこと
 松本伊智朗編著 ●A5判/250頁/3740円

▼大学と自治体による共同調査
 対象・小5・中2・高2の子と保護者、2歳・
 5歳・小2の保護者

▼貧困研究、教育を軸とした社会学・心理学の専
 門家の協働研究

▼年齢段階に即した考察で「問題の構図」を再考

第1部 研究の背景と分析視角

- 1 貧困を可視化する…大規模な生活調査の視点と背景……………松本伊智朗
- 2 調査の概要と所得階層・所得格差と貧困層の存在……………松本伊智朗
- 3 保護者の仕事・働く時間の側面から……………鳥山まどか
- 4 子育て世帯の家計…家計管理の安定性の観点から……………鳥山まどか
- 5 社会的つながりと公的諸制度の利用……………松本伊智朗
- 6 子どもへの貧困と健康……………関あゆみ
- 7 乳幼児期の生活、子育て、保育……………川田学
- 8 子どもとの生活と経験…ケアの社会化と家族資源の観点から……………大澤真平
- 9 子どもへの貧困と思春期の発達……………加藤弘通
- 10 学校での学びと経済状況……………大谷和夫
- 11 進路、地域、経済……………上山浩次郎

終章 知見のまとめと今後の見え……………松本伊智朗